
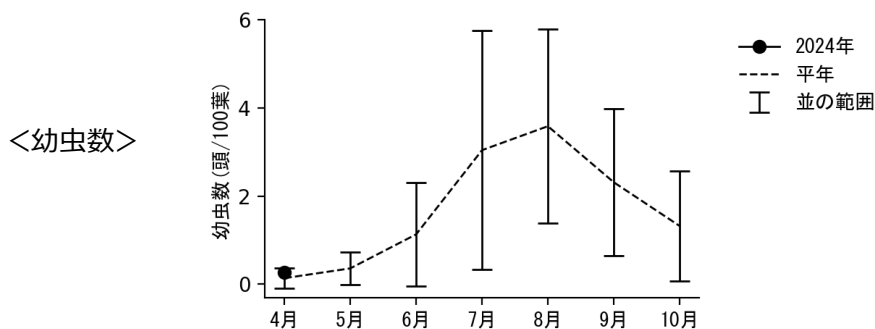
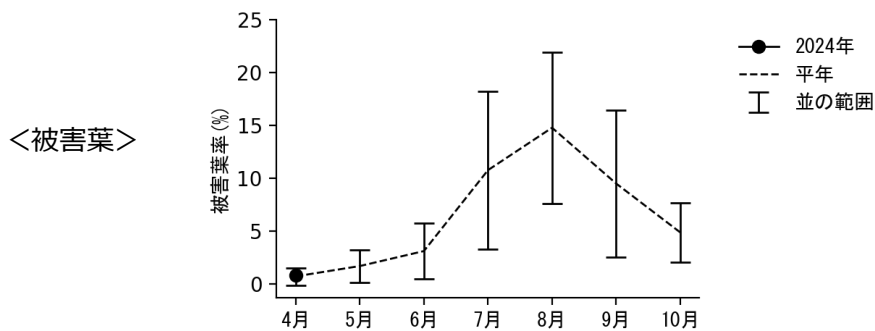


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の発生推移




・発生ほ場率50.0% (平年 : 59.0%)

防除のポイント

・発生初期の防除が有効であるので、被害葉がみられたら薬剤散布する。

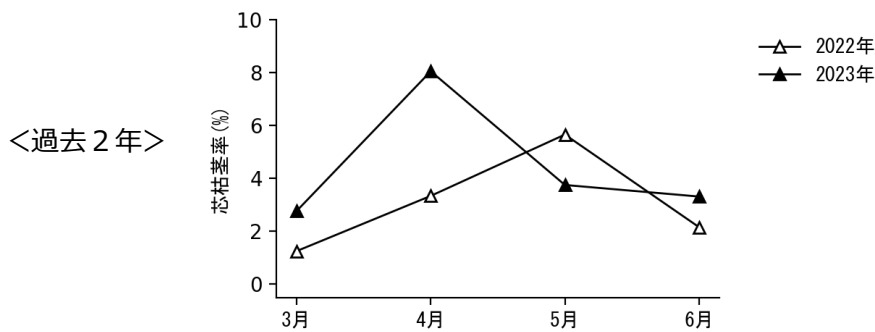
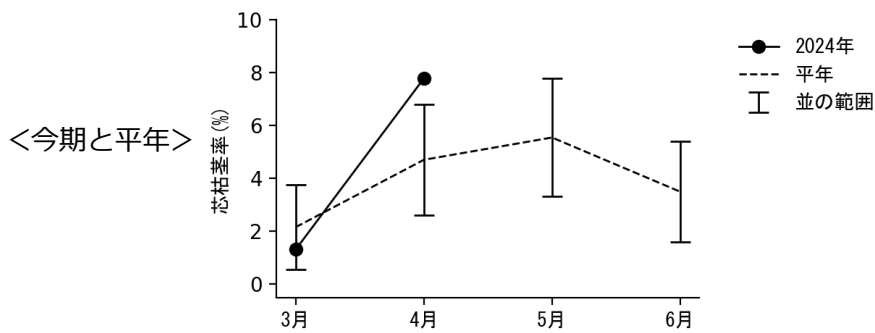


被害葉 (つつられた葉)

作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	4 月からの増減傾向	↗		
		5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

芯枯茎率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ (93% : 38 頭/41頭)、イネヨトウ (7% : 3頭/41頭)。
- ・発生ほ場率87.5% (平年 : 94.7%)、多発生 (南大東島、伊是名島)

防除のポイント

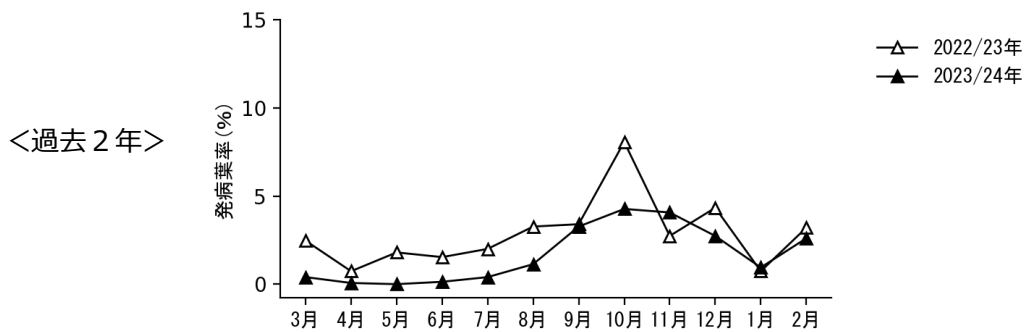
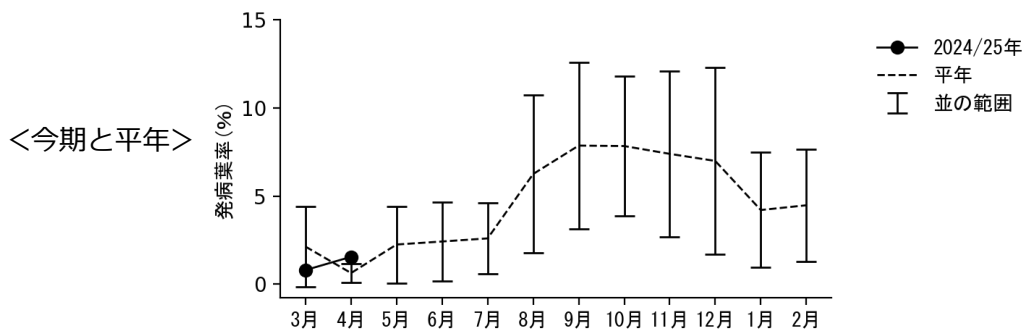
- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	



調査結果

発病葉率の推移




- ・ 葉の発病度0.3 (平年0.2)
- ・ 発生ほ場率80.0% (平年 : 37.0%)

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

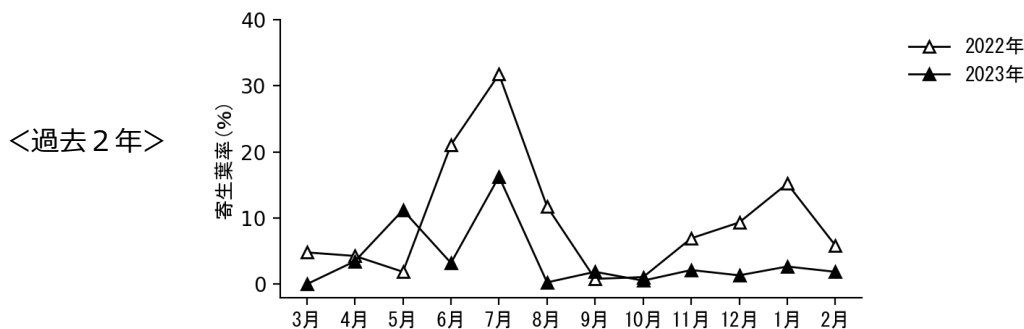
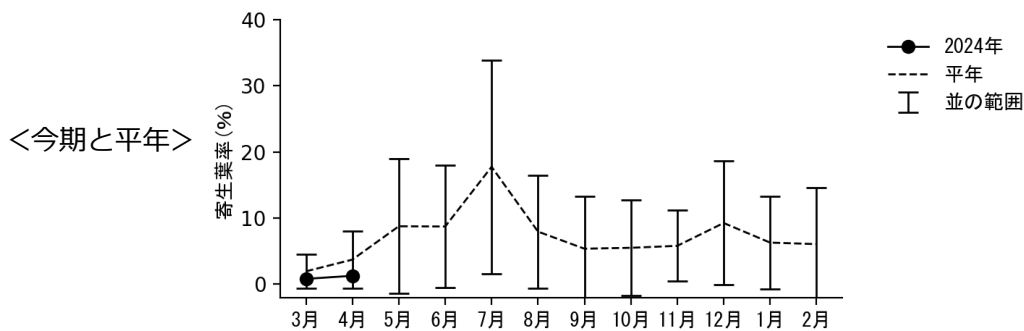


被害果

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率60.0%（平年：30.4%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

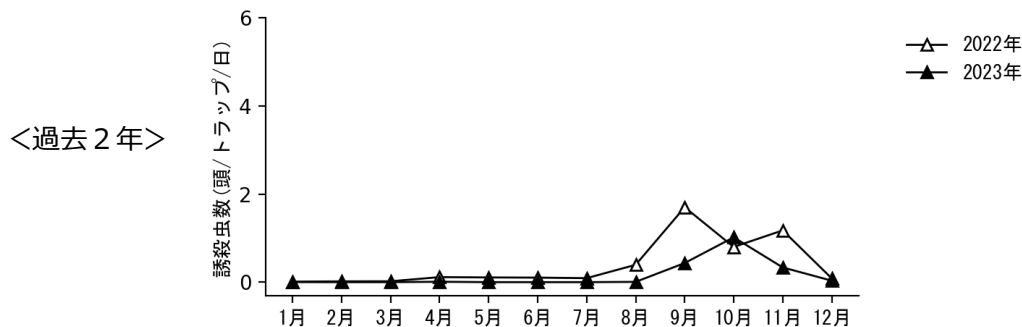
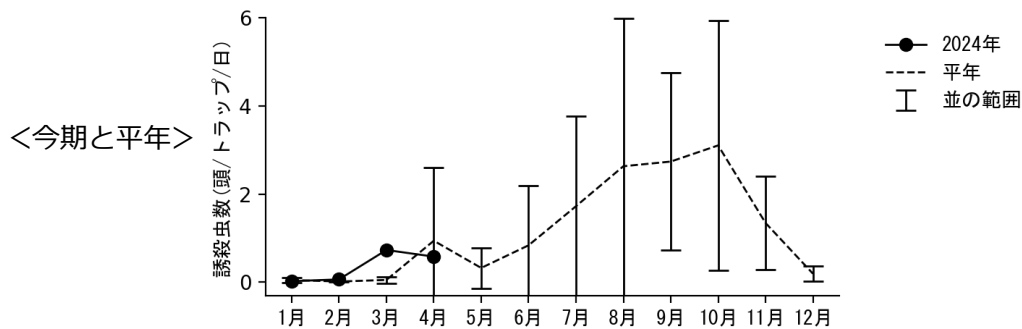


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率75.0% (平年 : 85.0%)

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

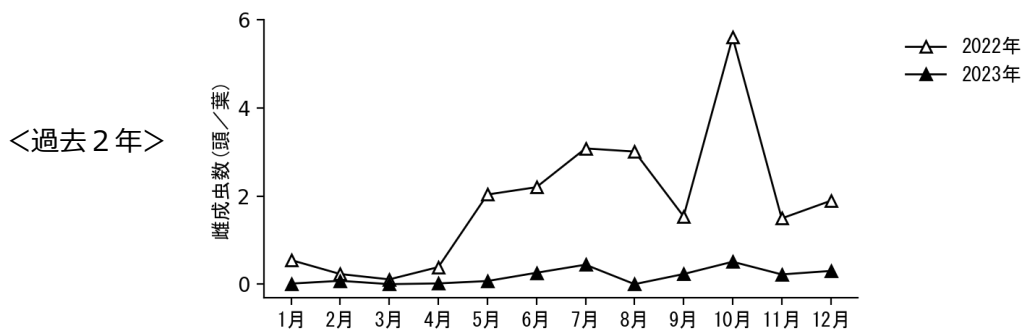
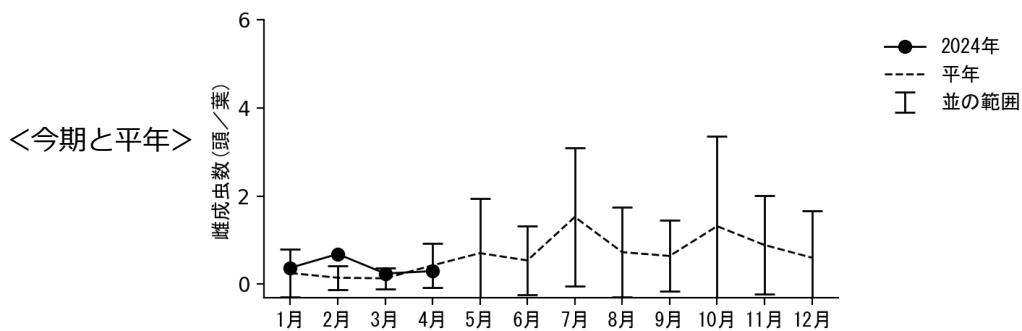


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率50.0% (平年：44.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

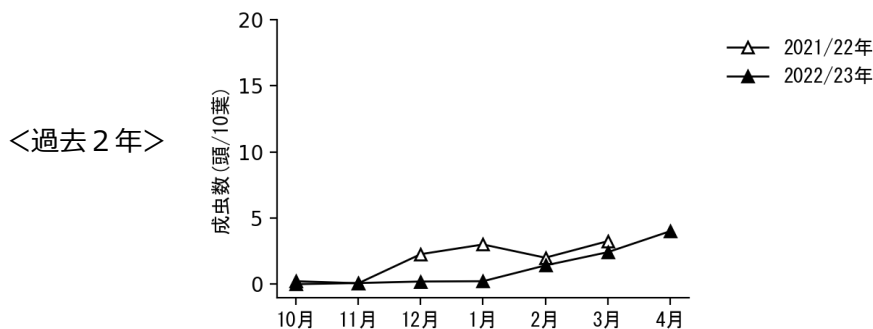
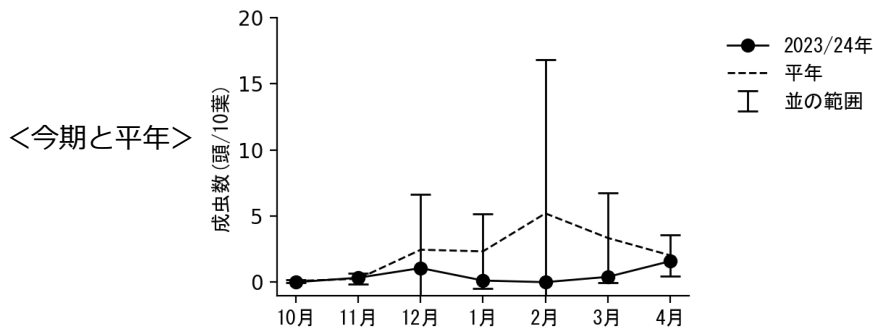


マンゴーツメハダニ

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


成虫数の推移



・発生ほ場率75.0% (平年 : 79.3%)

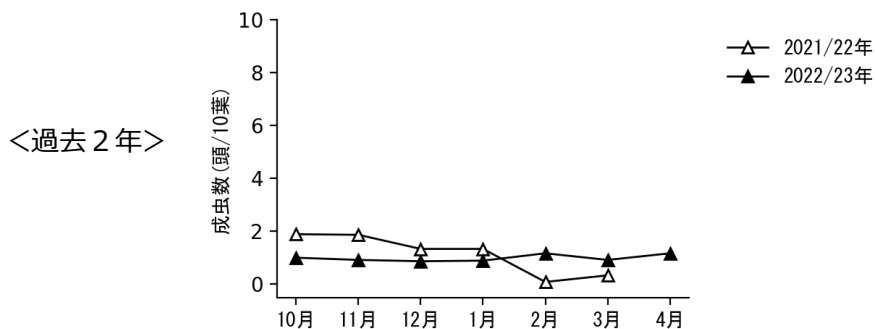
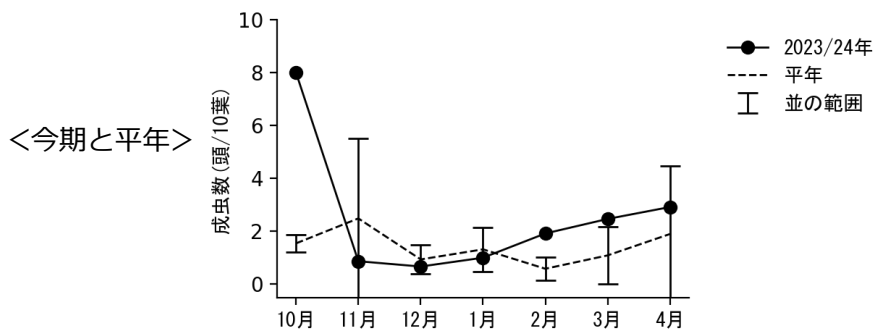
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成虫数の推移




・発生ほ場率100% (平年 : 70.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

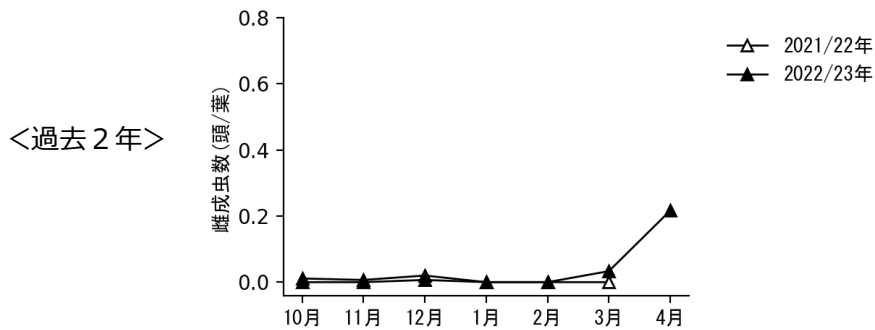
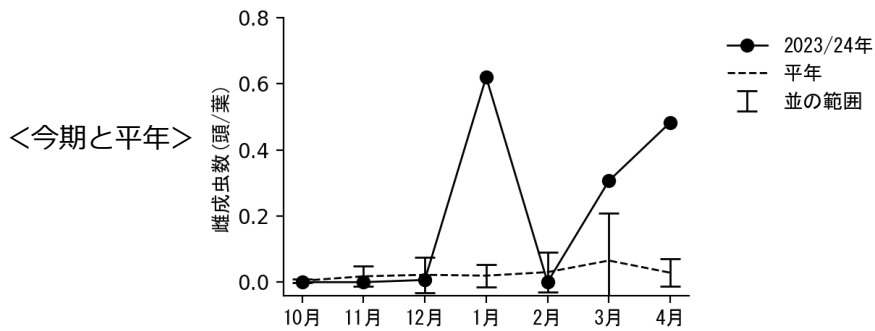


幼虫

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	多		
予報	4 月からの増減傾向	—		
	5 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


雌成虫数の推移



- ・発生種：ナンゴクナミハダニ、ナミハダニ黄緑型
- ・発生ほ場率50.0% (平年：12.0%)

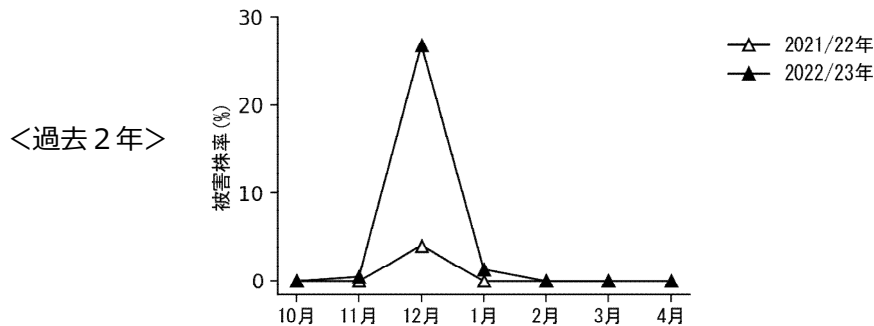
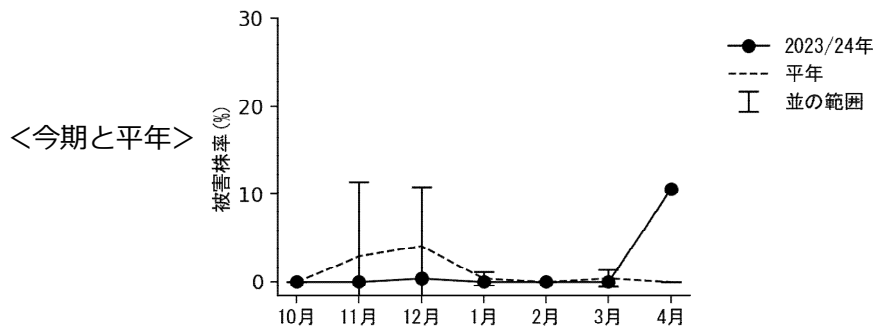
防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	多	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

被害株率の推移



- ・発生種：チャノホコリダニ
- ・発生ほ場率75.0% (平年：0%)

防除のポイント

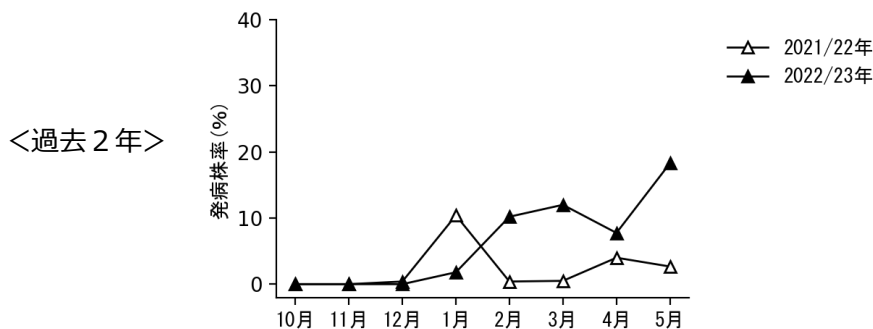
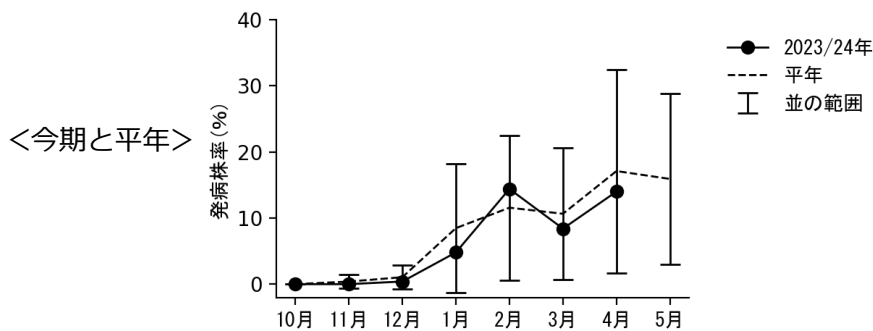
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・発育速度が早く、短期間で高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、薬散は丁寧に行う。



作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率80.0% (平年 : 53.6%)

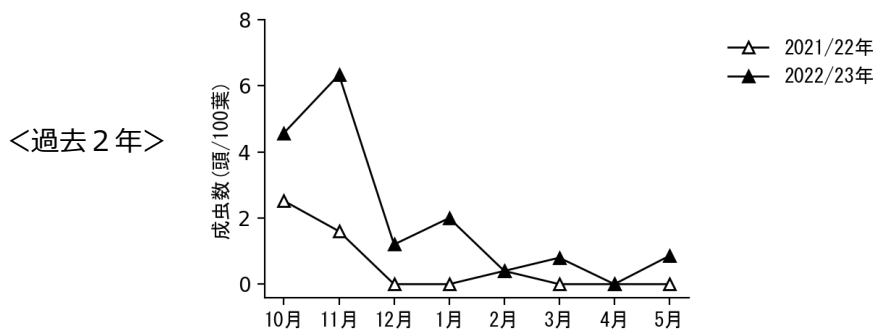
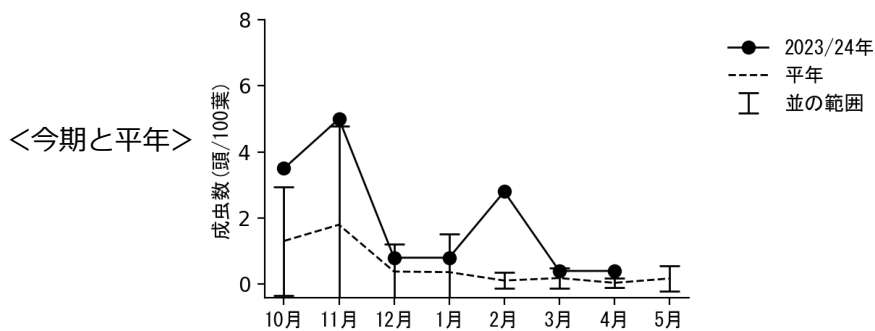
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		 <p>成虫</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	→	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率20.0% (平年：2.0%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

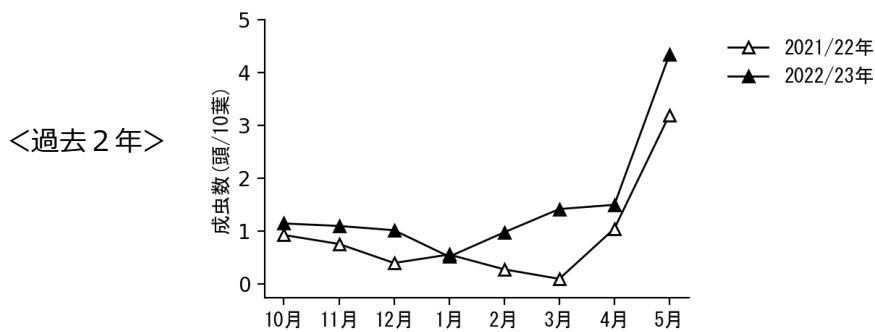
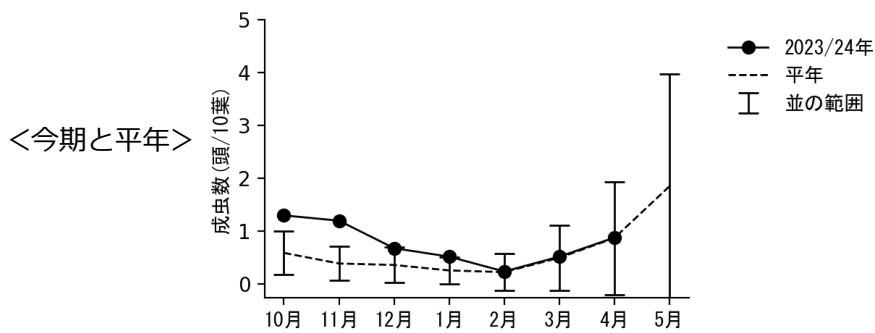


被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年：43.1%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

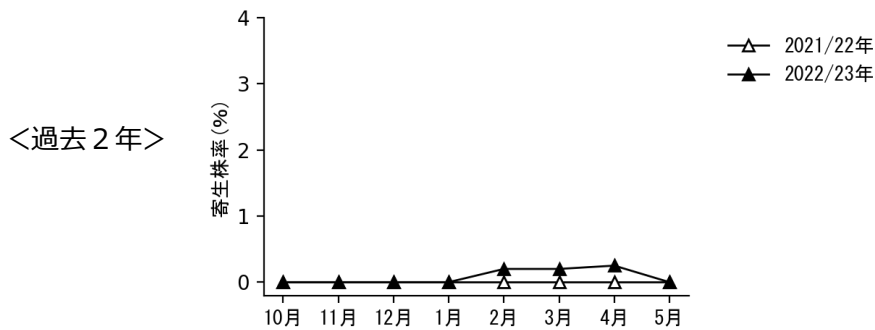
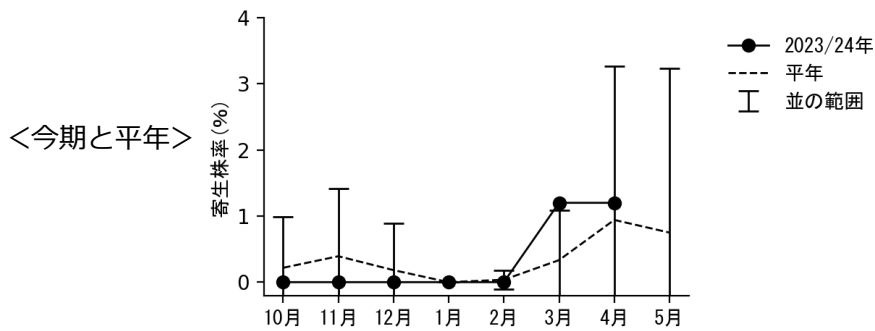


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報	4 月からの増減傾向	↓		
	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

寄生株率の推移



- ・発生種：ミヤラナミハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：9.8%)

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。